

ロミオとジュリエット (1968)

ROMEO E GIULETTA

ROMEO AND JULIET [米]

メディア 映画
ジャンル ロマンس
製作国 イギリス/イタリア
色彩 Color
時間 138分
初公開日 1968/11/09
公開情報 P A R
映倫 G
1972/02 [C I C]
リバイバル 1974/04 [C I C]
1976/01 [C I C]

【キャッチコピー】

若い人々に捧ぐ……最も若く 最も美しい 愛の名篇！
その時 ふたりは 16歳と 14歳であった …… (リバイバル時)

美しく永遠に輝く愛と青春…若い人々に捧げる不滅の名篇！
忘れないでほしい… 二人で誓いあった この溢れる喜び！ (リバイバル時)

【解説】

言わずと知れたシェイクスピア原作の映画化。イタリア、ルネッサンス期の1450年頃、春まだ浅きヴェロナの町。二大名門として知られるモンタギュー家とキャピュレット家は、仇敵視しあう仲で日々血で血を洗う争いが絶えなかった。ある日、舞踏会で出会ったロミオとジュリエットは、一目で魅かれ合う。だがお互いの素性を知って嘆き合う二人。しかしバルコニーで恋の苦悩を訴えているジュリエットを見かけたロミオは、いたたまれず熱烈な愛の告白をし、二人は結婚を誓い合う。翌日、結婚式をあげての帰り道、口論を止めようとしたロミオは親友が殺された事に逆上し、相手を刺してしまう……。キャピュレット家の舞踏会における二人の出会いのシーンの初々しさ、ロミオとティボルトの決闘シーンの迫力、悲劇をクライマックスに導く墓所の場面の素晴らしさ等々、シェイクスピアの原作を知る人には勿論の事、万人の胸を打つ感動の名作である。そして当時15歳だったO・ハッセーが実にかわいらしく、ジュリエットを見事に演じているのも見所。

【クレジット】

監督	フランコ・ゼフィレリ	Franco Zeffirelli	
製作	ジョン・ブラボーン	John Brabourne	
	アンソニー・ハヴロック＝アラン	Anthony Havelock-Allan	
原作	ウィリアム・シェイクスピア	William Shakespeare	
脚本	フランコ・ゼフィレリ	Franco Zeffirelli	
	フランコ・ブルサーティ	Franco Brusati	
撮影	パスクアリーノ・デ・サンティス	Pasqualino De Santis	
音楽	ニーノ・ロータ	Nino Rota	
出演	オリヴィア・ハッセー	Olivia Hussey	ジュリエット
	レナード・ホワイトティング	Leonard Whiting	ロミオ
	マイケル・ヨーク	Michael York	ティボルト

ミロ・オーシャ

ブルース・ロビンソン

ジョン・マケナリー

パット・ヘイウッド

Milo O'Shea

Bruce Robinson

John McEnery

Pat Heywood

ローレンス神父

マキューシオ